

差かむ名支御所御意大坂一首少く御感悦みは思召作
豊原寺在所二月より道法園分ハ八里中より下方より長
ハ大和へ押向し人投三方中より二方行りし凡園より大和
園中より者も皆東へ山中へ落散りし大坂御陣陣以
後為原へ六方不余めくは遣はしは後病火仕は相合長門中
無在遣法信付の事筒井之儀依りて了と山城へ國を去
りて法林の處に世同のくハハ之後ハ一節ハ不及郭と退由
凡園依り道中より南都へ歸り真福寺に妙喜院とて切
腹法林のハハハ傳るや

一 大坂落城之は免角郡山又城無くはは如何と法林の
て重て上之意より休之の城と割郡山へ御河法林の水燈
り向ふ六カ石より下二年落城あり城並居り大坂日向寺そ
尾法林の日向守以不替り御付其後へ松平下徳寺以五十二万石
御下之を奪り扱寛永三丙寅年 大樹公御上法と割南都へ御
命詣り了遊由之より御一宿了遊由めくは凡御殿等
公儀より御御事并 南都東大寺九折山又林兼り御茶屋と建
以より御示消無く下徳寺以二十年居協寛永十六年乙卯
より播磨進修く可治り御付其一兩年より公儀へ御取領部く
旧より三カ石延喜より十カ石郡令と其ははむ多旧証以并
中勢大浦以打平りめを改むる御意を以て